

Contents

- 02 目次
プロローグ Vol. 14
- 04 **特集 西バルカン地域
成長力と魅力に出会う**
- 06 メンターの活躍で中小企業を支援 セルビア
- 10 生活の基盤を整え国の発展を コソボ
- 14 自然保護と持続可能な利用の両立 アルバニア
- 16 適切な森林管理が災害を防ぐ 北マケドニア
- 18 公共交通の要となる路線図をつくる ボスニア・ヘルツェゴビナ
- 20 “文明の十字路”バルカンを知る
- 22 特別レポート
元サッカー日本代表 宮本恒靖が架けた“希望の橋”
- 24 JICA海外協力隊がゆく Vol. 13
セルビア
- 26 **世界につながる教室⑦**
教員研修に生かすJICAの知見
- 28 **地球ギャラリー Vol. 135 ニカラグア共和国**
写真・文●柴田大輔 フォトジャーナリスト
湖と生きる人々
- 34 **教えて！ 外務省**
知っておきたい国際協力⑮
- 36 緒方貞子 元理事長逝去のお知らせ
- 37 JICAイベントカレンダー
- 38 読者の声、プレゼントほか
- 39 JICA PRESS
- 40 **わたしが見つけたSDGs Vol. 15**

最初のヨーロッパ への誘い

文・柴宜弘

バルカン半島西側の6か国からなる带状の一角が、西バルカン地域と呼ばれる。欧州連合（EU）の統合過程から取り残されてしまった地域であり、最後のヨーロッパとも称される。しかし、旧ユーゴスラビアのボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、モンテネグロ、コソボ、北マケドニアの5か国とアルバニアからなるこの地域に生きる人々にとっては、ここはヨーロッパ文明発祥の地域であり、最初のヨーロッパとの意識が強い。

旧ユーゴスラビアの5か国には1990年代の紛争のイメージが強烈で、いまでも多くの人は、この地域は「危険地域」という思い込みから抜けきれないだろう。日本の本州の面積より狭い地域に6か国が隣接しており、民族、言語、宗教が複雑に絡まっている。こうした複雑さが原因となって紛争が引き起こされ、ユーゴスラビア紛争もその延長線上にあったと説明されると、わかったような気になってしまう。

しかし、この地域の紛争は複雑さに起因するのではなく、それを利用してする外部勢力や内部の政治勢力によるところが大きい。長い歴史を概観すれば明らかのように、この地域の人々はおたがいの違いを認め合い、知恵を働かせて共生してきた。複雑さとは多様性と言い換えてもよいだろう。人々はむしろその多様性をばねにして、引き起こされた対立を乗り越えてきた。

コソボでの私の体験もそのことを示している。数年前に私はベオグラードに本部を置くECPD（平和と開発のためのヨーロッパ・センター）内の国連平和大学（本部はコスタリカ）で教えたことがある。旧ユーゴスラビア時代の85年に創設されたECPDは、現在もこの地域の平和と安定を目指して、主として大学院教育を行っている。私が講義をする機会に恵まれたテーマは「平和研究と人間の安全保障」についてだった。



イラスト●中村知史

ECPDの支部はコソボ第二の都市である古都プリズレンに置かれていて、ここで10人ほどのアルバニア人の院生を相手に集中講義を行った。院生はみな社会人で、その中に国連コソボ暫定行政ミッション（UNMIK）に勤務するアルバニア人がいた。彼の講義後のレポートには、コソボ紛争（98～99年）前の少年時代に祖父から聞かされたセルビア人への不信感と、遊び仲間であるセルビア人の親友にまつわる自分自身の楽しい思い出が書かれていた。内容は、憎しみや不信だけを語り継ぐのではなく、両民族間の信頼の回復とそのため平和教育こそ重要だと主張する感動的なものだった。

この地域の発展には観光促進も重要で、西バルカン6か国による地域協力は不可欠である。EUにいち早く加盟したスロベニアと、西バルカン地域の一国だったが13年にEUに加盟したクロアチアが主導する「ブルド・ブリュニ・プロセス*」が始まっている。19年5月には、アルバニアの首都ティラナで6か国の年次首脳会議が開かれており、観光に利用する道路などのインフラ整備が進められている。対立の記憶と共生の努力が入り混じる多様な、最初のヨーロッパの魅力を実感するには、やはり現地に足を運ぶのが一番だ。ビザンツやオスマンの文化遺産もさることながら、なんといっても、アドリア海の美しさやバルカンの山々の豊かな自然には誰しもが圧倒されることだろう。

*ブルドはスロベニアのクラニ近郊の町、ブリュニはクロアチアのアドリア海沿岸の島。両国の会議開催地の名を付した「ブルド・ブリュニ・プロセス」は2010年に始まり、2015年からは首脳会議も行われている。

柴宜弘(しば・のぶひろ)
城西国際大学大学院国際アドミニストレーション研究科・特任教授、東京大学名誉教授。1946年、東京生まれ。早稲田大学大学院博士課程修了。1975～77年にベオグラード大学留学。東京大学大学院総合文化研究科教授を経て、2010～14年にECPD国連平和大学（ベオグラード）客員教授。著書に『ユーゴスラビア現代史』（岩波新書）、『図説バルカンの歴史（増補4訂新装版）』（河出書房新社）など。



信頼で世界をつなぐ
Leading the world with trust



コソボの第二の都市プリズレンで、ごみ収集業務を担う「エコロジーン公社」の職員たち(写真：阿部雄介)。